

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福 岡 県 】

学校名【 福岡県立小倉西高等学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	小倉西高校 第1学年生徒 35名 第2学年生徒 15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ボッチャ体験 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目 標 (ねらい)	老若男女、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツとしてパラリンピック種目の「ボッチャ」の体験を行い、多様な社会環境に適応できる力を高めることを目標とした。
5 取組内容	令和2年11月6日（金）13：40～15：40 [講師] 障がい者スポーツ指導員 北九州レクリエーション協会より3名 



まず、講師の方から「ボッチャ」の歴史とルールを説明していただき、実際に体験を行った。「ボッチャ」の道具を初めて見る生徒がほとんどで、実際にボールに触れてみて、投げるときの手加減や的を狙うことの難しさを体感した。また、周囲の状況を見極める洞察力や戦術、チーム内でのコミュニケーションなど想像以上に奥深いスポーツであり、大いに盛り上がった。

6 主な成果	<p>「ボッチャ」は障がい者用のスポーツというイメージが強かったが、健常者も共に楽しめるスポーツであることの実感と、競技としては単純な動作で行うことができることもあり、運動の得意不得意にかかわらず、積極的に参加することができるので、お互いに支え合うという意識が広がった。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>「ボッチャ」の体験を通して、競技に関わっているパラリンピアンの思いを感じることで、「競技者を支える」という視点につながっていくことを意識させた。</p> <p>また、本校は部活動の入部率が90%と高く、日々、部活動で頑張っている生徒たちにとって、パラスポーツに触れることは日頃の部活動への取組を振り返る機会となるだけでなく、共にスポーツを楽しむ多くのパラスポーツの方々に対して理解を広げる良い機会になると実感した。</p>
8 主な課題等	<p>今回の活動は、新型コロナウイルス感染症対策や施設設備の影響もあり、限られた人数での実施となったが、さらに多くの生徒に体験をさせることができれば、より有意義かつ効果的なものになったと思われる。今後の活動を通して、より多くの生徒に伝えていきたいと思う。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>オリンピック・パラリンピックの東京開催に向けて、生徒の興味・関心をより高められるよう、今回の活動だけで終わるのではなく、機会があるごとに障がい者に対する理解を深めていく。</p> <p>また、本校は毎年小倉北特別支援学校との交流会を実施しているので、次年度からの計画に取り入れたいと思っている。</p>

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福 岡 県 】

学校名【 福岡県立小倉西高等学校 】

1 実践テーマ	①・II ③・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	小倉西高校 第1学年生徒 198名 第2学年生徒 193名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( 車いすマラソン体験 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目 標 (ねらい)	講師の方の体験談を通して、夢を持ってあきらめずに努力することの大切さ、支え合いや感謝する気持ちの大切さを学び、共生社会を実現しようとする意欲を高めることを目標とした。 また、様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるために社会や我々はどう変わらなければならぬかを考える機会とする。
5 取組内容	令和2年12月1日(火) 15:15~16:15 [講師] 「ヤフー株式会社所属」車いすアスリート選手 武村浩生様 [補助] 「NPO法人はあとスペース」代表理事 山本美也子様 [講演] 失ったことに悲観するのではなく、与えられた環境を最大限に生かして自分の可能性を信じて努力や挑戦をし続けていくこと。 また、大きな目標でも、小さな目標でも自分で決めてやり抜くことで「不可能を可能にする」ことができる。



	<p>[体験活動] 各学年1名の体験活動を行った。 実際に競技レース用の車いすを使用し、整列した生徒の間を走行した。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>困難があっても決してあきらめずに乗り越えてきた精神力とここまで頑張り抜いてきた姿勢や明るさがある講師の体験談を通して、前向きな考え方や心に響く言葉、メッセージに多く触れ、新たな気づきを得ることができた。</p> <p>また、他者との支え合いが人生をも充実させていくことがわかり、人との関わり方や言葉のかけ方を見直すきっかけになった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>当初の車いす体験活動は、生徒の最前列を走行させる予定であったが、後方からは見えにくい状況であったために急遽、生徒の中央を走行させたことで、より実感がもてた。</p> <p>また、質疑応答では、なかなか質問が出ないことを予測していただいて補助の方から、その内容を深めるための質問を投げかけてくださり、とても充実した時間となった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>予定時間が1時間であったため、2名だけの体験活動になってしまい、体験できる時間を十分に確保することができなかった。</p> <p>また、目標にもあげているが、様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるためには社会や我々はどう変わらなければならないかを考えることができる事前学習を行っていれば、より充実した体験活動になったのかも知れない。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>2020東京開催オリンピック・パラリンピックに対して多くのスポーツがメディアでも取り上げられ、目や耳に触れる機会が多くなってきた。今回このような機会をいただいたので、「する、みる、ささえる」といった観点から、多くの生徒が何らかの形でスポーツに興味を持って参加できるように推進したい。</p>